

民による調査活動 ない世界をめざして～

2011年度 自生GMナタネ汚染調査報告会

日本では栽培されていないはずの遺伝子組み換え(以下、GM)ナタネ。GMナタネを輸入している港の周辺や輸送ルートにあたる道路沿いでコンクリートやアスファルトの亀裂から芽を出しているナタネは、一見すると春先によく見かける「菜の花」だが、採取し検査すると、特定の除草剤に耐性を持つGMナタネであることが判明する。その数は、年々増加する傾向にあり、GM汚染は市民の暮らしのすぐそばで確実に広がりを見せている。

2005年から全国のGMに反対する団体によって一斉にスタートした自生GMナタネの調査活動が、これまで毎年続いている。

グリーンコープは6月27日、福岡市で自生GMナタネ汚染調査の報告会を開催し、組合員など122人が参加した。

7月9日には、GMナタネ自生調査全国報告集会在大阪で開催され、市民による調査活動の重要性が再確認された。

自生GMナタネ汚染調査結果

グリーンコープ エリア	調査箇所数	1次検査で反応が出た検体	
		ラウンドアップ	バスタ
おおさか	10	0	0
ひょうご	5	0	0
(島根)	5	0	0
おokayama	13	0	0
ひろしま	6	0	0
やまぐち	19	0	2
ふくおか	69	12	28
(長崎)	5	0	0
くまもと	48	0	0
おおいた	25	0	0
かごしま	16	0	0
みやざき	5	0	0
合計	226	12	30

(うち5は両方に反応)



ふくおか(北九州地域)の調査の様子



ふくおか(南地域)の調査の様子



▲ふくおか(福岡地域)の調査の様子



◀陽性反応の出たナタネは太い根が生えていた

ラウンドアップ・バスタは共に除草剤。遺伝子組み換えにより、これらの除草剤に耐性を持つナタネはこの検査で陽性反応を示す

2011年グリーンコープでは、12単協のエリア内226カ所で調査を実施。一次検査で陽性反応が出たのが37検体、そのうち5検体にラウンドアップとバスタ両方に耐性があることを示す陽性反応が出た。

2011年度自生GMナタネ汚染調査報告会では、陽性反応が出たやまぐちとふくおかから調査活動について報告があった。また、天笠啓祐さんによる講演もあった。

ふくおかの報告



ふくおか理事長 田原 幸子さん

今年度の調査地点は、GMナタネの分布状況を明確にすることを目的に、九州で唯一の輸入ナタネの荷揚げ港である箱崎埠頭(福岡市)を中心に、69箇所を調査した。結果、35検体に陽性反応が出た。箱崎埠頭内海岸沿いの道路では、今年もナタネが自生しており、昨年に続き陽性反応が認められた。そして、輸入ナタネによる汚染は、内陸部(北九州市若松区、糟屋郡新宮町、筑紫野市、朝倉市、朝倉郡筑前町)へも広がりを

やまぐちの報告



やまぐち理事長 松村 理津子さん

今回の調査活動に向け、産直活動委員会内部学習会を行い、模擬検査を実施してきた。各地域の理事会でも事前学習を行い、調査活動に取り組んだ。山口県内には輸入ナタネの荷揚げ港や関連工場はないが、幹線道路沿いや河川敷、公園等で自生ナタネを採取した。県内19カ所を調査した結果、初めて採取した2カ所の検体で陽性反応が出た。そのうち1検体に数時間かかっており、再検査の必要があったかと思

われる。前回の調査で陽性反応が出た場所に今回はナタネの自生が見られなかったため調査を断念したが、カランシナなどの検体で調査する方法もあったことなど、事前の調査方法の検討など今後の課題も見えてきた。今回、参加した組合員が住んでいる地域のナタネを採取し調査したことで、遺伝子組み換え問題が身近なものとなり、今後も調査活動を継続していく必要性を感じるものになった。

2012年度には山口県でGMO全国交流会の開催が予定されている。交流会に向けて、自生GMナタネの監視活動を続け、この取り組みを行政などに発信することも検討していく必要がある。

せている。これらの地点は、過去の調査で陽性反応が出ており、GMナタネの自生を再度確認することになった。箱崎埠頭の敷地を管理している業者へは、行政から清掃・衛生管理の徹底指導を行っているにも関わらず、GMナタネ自生の実態が変わらないこと、私たちのこれ以上広がらないようにとの願いも空しく拡散している現状に衝撃を受けている。

「GMナタネ抜き取り隊」からの報告

「GMナタネ抜き取り隊」は2009年にGMナタネ根絶をめざして、組合員やグリーンクラブ(グリーンコープ取引業者の会)のメンバーで結成された。ふくおかのGMナタネ自生調査の結果から分布状況を把握し、春と秋に箱崎埠頭付近のナタネを抜き取る活動を行っている。

「買わない、作らない、作らせない」を合言葉にGM食品の表示の問題にも取り組み、福岡県内には594.1haのGMフリーゾーン(GM作物が栽培されていない地域)が誕生した。生物多様性を守っていくための大切な運動の一環として、ふくおかの取り組みは大きな意味を持つ。今後も行政や各業者と情報を共有しながら協議をすすめ、調査活動を継続していく必要性を強く感じている。

交通量の多い幹線道路沿いや大規模倉庫のフェンス付近など、GMナタネの抜き取り作業には危険を伴うことも多い。通行中の車によく見えるように看板を背負った作業。丈の低いナタネも見逃さないように気をつけている。活動をはじめたころはナタネを探すのも大変だったが、作業をすすめていくうちにナタネが目に見え込んでくるようになった。今後も地道な活動がGM汚染の拡大阻止につながることを実感しながら活動を続けていく。

共同体主催講演



天笠啓祐さん 遺伝子組み換え食品いらないキャンペーン、市民バイオテクノロジー情報室代表

遺伝子組み換え作物の環境汚染

2011年6月27日 福岡市

原発と遺伝子組み換えは、双子の兄弟である。原子爆弾の開発研究で成功を収めた学者たちは、次の研究対象として生命に関わることに目を向け、分子生物学を

に科学的な裏づけを持ったことになる。

愛知県ではナバナとGMナタネの交雑が起り得ることから、県が行っていたナバナの自家採種が中止された。アメリカやカナダでは有機農業を断念した農家も出てきている。西オーストラリア州では有機農家に隣接するGM農家からの汚染で、その農家の有機認証が取り消される事態も起き



続けていこう!市 ～遺伝子組み換えの

2011年GMナタネ自生調査全国報告集会在大阪

広がる遺伝子組み換えナタネ汚染 ―汚染を止めるのは市民の力―

今年も「遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン」の呼びかけにより、GMに反対する全国の団体が、調査結果と活動内容を報告しあつた。調査活動の困難さや人員確保の苦勞など現場からの情報をもとに、今後の地道な調査活動の継続をめざし情報交換した。今年で7年目を迎えた調

GMナタネ自生調査をしている 団体からの報告

生活クラブGM食品問題協議会・生活クラブ生活協同組合都市生活

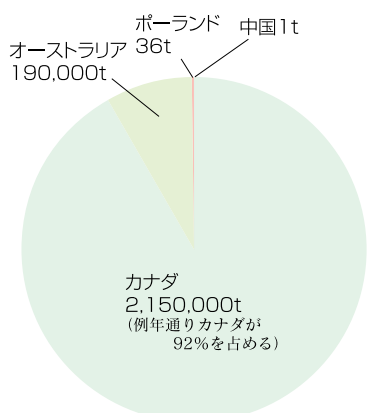
震災の影響で採取できない地域もありながら、主要港付近で調査を実施した。農水省の調査で昨年GMナタネの自生が見つかった八戸港は、津波の影響で自生ナタネは見つからなかった。ナタネの輸入総量に関して11年連続日本一の神戸

港では、港と工場をつなぐベルトコンベア下に自生が多く見つかっている。こぼれ種による自生と見られるが、工場の敷地内だったのが調査はできなかった。近くには近縁種の雑草も多く交雑が心配される。

生活協同組合コープ自然派事業連合

大阪と兵庫では3月下旬から5月中旬にかけて、多

日本に輸入された
ナタネ関連品目の輸入先と輸入量



2011年1月から12月までに日本に輸入されたナタネ関連品目の累計数は2,344,000t。昨年より270,000tの増加。(財務省貿易統計)

くの役員と組合員の協力を得て、それぞれ44検体ずつを採取。過去にGMナタネが見つかったという神戸港付近は、かなり細かく歩いて調査した。しかし今回は春先に気温が上昇しなかつたせいか、菜の花を見つけたこと自体が難しかった。京都では19検体、奈良では24検体を採取し、2カ所

遺伝子組み換え食品を 考える中部の会

所で陽性反応を確認した。四国4県で合計48検体を採取したが、陽性反応は見られなかった。

農民連食品分析センター 遺伝子組み換えナタネ調査隊

2011年4月11日から6月3日にかけて、横浜から博多までの主要港、合計10港の調査を行った。119検体を採取し、初めて調査した門司港を含む全ての港でGMナタネを検出した。博多港以南の調査地点では、輸送とは全く関係ないと思われる極めて細かい

一般道でも検出があった。この地点が高速道路の高架下であることから博多港からは高速道路を使った輸送が行われていると考えられる。

今の特典では、行政や第三者機関がGM作物の種子やそれを原材料にした製品の輸送経路情報の集約を

するまでには至っていないが、今後は自生GMナタネをなくすための具体的な取り組みの実現をめざさなければいけないと考えさせられる結果となった。

三重県鈴鹿市から松阪市の区間で調査を実施。昨年6月の調査で、アブラナ科雑草との交雑を思わせるGM陽性の個体が複数確認されたが、11月の調査では同様の交雑個体を確認することはできなかった。「抜き取り隊」は参加者の交通費自己負担を軽減するために、マイクロボスを用意し、40人の参加者が事故なく調査をすることができた。しかし、予定した区間(約20km)の一部で、抜き取り作業ができないところがあった。したがって、実際のアブラナ科植物の数は採取データを上回る数になると思われる。採取した637本のアブラナ科植物のうち、セイヨウナタネは406本、ラウンドアップ耐性の陽性率は33.7%、バスター耐性の陽性率は38.9%。セイヨウナタネ以外の植物にGM陽性は見られなかった。

研究に用いた。研究に研究を重ねていき、やがて「遺伝子組み換え技術」が開発されていった。「人間がコントロールできない技術」の怖さは、原子力技術の開発と共通する。

GMナタネの栽培国は現在アメリカ・カナダ・オーストラリアの3カ国。これは世界の主要ナタネ生産国と同じである。

GM作物の問題点は、食の安全を脅かし、環境を破壊することにとどまらず、除草剤による健康被害も広がり、多国籍企業の種子独占による食物支配をもたらしている。

最近の報告では、カナダの大病院産科婦人科の調査では除草剤やBt(殺虫性)毒素は、妊娠している女性に蓄積しやすいことが分かってきた。さらに、へその緒からも検出され、GM作物の脅威は次世代に受け継がれている可能性が高い。GM作物の持つ有害な成分は私たちの子々孫々にまで及ぶということ

最近の報告では、カナダの大病院産科婦人科の調査では除草剤やBt(殺虫性)毒素は、妊娠している女性に蓄積しやすいことが分かってきた。さらに、へその緒からも検出され、GM作物の脅威は次世代に受け継がれている可能性が高い。GM作物の持つ有害な成分は私たちの子々孫々にまで及ぶということ

最近の報告では、カナダの大病院産科婦人科の調査では除草剤やBt(殺虫性)毒素は、妊娠している女性に蓄積しやすいことが分かってきた。さらに、へその緒からも検出され、GM作物の脅威は次世代に受け継がれている可能性が高い。GM作物の持つ有害な成分は私たちの子々孫々にまで及ぶということ

今後このようなことが次々に起こりうる懸念される。輸入食品に頼らず、地産地消中心の社会へ向かうことが最重要課題ではないかと考える。

市民は予防原則に立つことで環境を守り、生活を守って子どもや家族の健康も守ろうという視点がある。この視点が、国や学問としての調査研究とは決定的に違うものと言える。

市民による調査が国を動かす。市民による自生GMナタネ調査の意義はそこにある。

※パチルス・チュロリゲンシス菌がつくる殺虫性タンパク質。トウモロコシなどの遺伝子組み込まれ、殺虫性作物としてアメリカで作付けされているが、耐性をもつ害虫の出現など、環境への影響が顕著になりつつあ

最近の報告では、カナダの大病院産科婦人科の調査では除草剤やBt(殺虫性)毒素は、妊娠している女性に蓄積しやすいことが分かってきた。さらに、へその緒からも検出され、GM作物の脅威は次世代に受け継がれている可能性が高い。GM作物の持つ有害な成分は私たちの子々孫々にまで及ぶということ

パネルディスカッション



菜の花プロジェクトネットワーク代表藤井絢子さんによる講演と、チェルノブイリ救援・中部理事神野英樹さんによるロシアでの実践的な活動報告のあと、会場からの質問に答える形式でパネルディスカッションが行われた。東日本大震災の影響から質問の多くは原発や放射能汚染や原発に関するものだった。藤井さんのもとには、ナタネは土壌中に蓄積した放射能を吸収する(3%程度)性質があることから問い合わせが多く寄せられるが、一概に「ナタネを植えれば解決する」という問題でもない。風評に惑わされることのないよう市民ひとり一人の力が大切になることが強く発信された。

※1 1970年代、琵琶湖の水環境を守るためのせっけん運動に端を発し、菜の花を植え資源循環型社会をめざす活動
※2 チェルノブイリ原発事故の被災者の救援活動を行い、自立支援の一環として菜の花による土壌浄化、循環型地域エネルギー創設などに取り組む

映画 パシー・シュマイザー モンサントとたたかう



―それは除草剤を撒いても枯れない遺伝子組み換えナタネだった。それは、まるでフランケンシュタイン植物だ―

グリーンコープの報告会で映画を観る参加者

1997年、カナダの農民パシー・シュマイザーが、風で飛ばされてきた遺伝子組み換え種子によって畑を汚染された上に、その種子を開発したモンサント社に特許権の侵害で訴えられた。巨大企業に立ち向かう一人の農民を追うドキュメンタリー映画。

(配給: 小林大木企画)